

源氏物語若紫卷古写本の仮名遣いと本文の系統

— 定家本と池田本・大島本、河内本・陽明文庫本 —

みなみ
南 よし
ひろ
芳公
(本学名誉教授)

はじめに

小論では、源氏物語のいわゆる藤原定家本を中心に、古写本の仮名遣いの調査を重ねてきた。すでに前稿¹⁾までで、現存の柏木・花散里・行幸・早蕨の四帖について、その調査を一応終えた。また、新たに重要な写本である池田本にも注目して、特異な表記のみられた夕霧巻の調査も行った。本稿では、近年新出の定家本の五冊目として大きな話題となった若紫巻を取り上げること²⁾にしたい。「高精度原寸カラー版で初公開」となった、定家本の影印本の刊行を受けて、引き続き仮名遣い(ただし、オとヲのみ)について調査を行う。今回も池田本を対象の一つとして取り上げ、諸本の異同にも目を向けて、本文の系統についても若干の考察を加えることにしたい。

- ① 定家本
- ② 大島本 (池田亀鑑『源氏物語大成』校異篇の底本)
- ③ 池田本

- ④ 河内本系統である、尾州家河内本源氏物語
 - ⑤ 別本のうち、陽明文庫源氏物語
- 以上、五つの本文の異同を先ず調査する。³⁾

一

若紫巻において、オとヲを歴史的仮名遣いで使用する語についてみると、〈オ〉の仮名では、用例数、延べ249語。〈ヲ〉では、用例数、延べ71語となる。これらを異なり語で、次のようにまとめた(複合語・派生語の立項のしかたで、異なり語数は多少数値が違ってこよう)。

・〈オ〉—89の語例(項目) ・〈ヲ〉—19の語例(項目)

以下、語例をそのまま〈 〉内に歴史的仮名遣いで見出し(項目)とした(適宜漢字表記を掲げる)。その見出しのもとに、当該箇所⁴⁾の用例をすべて掲げ、その所在を示すことにする。各用例は、先ず、定家本の本文により表記と所在を示した。次いで、そのあとに大島

本を底本とする『源氏物語大成』校異篇（あわせてカッコ内には新大系本）、池田本、尾州家河内本源氏物語、陽明文庫源氏物語の所在を示す⁵⁾（それぞれ、定・大成・新・池・河・陽の略号で掲げ、定家本・池田本については丁数とオモテ・ウラの別を記す。諸本の洋数字（二桁以上は横書き）は頁数、丸数字は行数を表し、適宜原文も示す。なお、定家本と同じ本文を「同」として先に掲げ、異なるものは「/」で区切りを付けてそのあとに掲げる。

さらに、各用例（定家本での表記）ごとに記号を加えたが、◇印は定家本で歴史的仮名遣いに一致する語例である。また、五本の仮名遣いがみな同じ場合には◎印を付した。なおまた、五本共通の場合とは別にして、定家本と池田本との仮名遣いの異同にとくに注目し、この二本間で同じ場合は○印を付した。

〈才〉

〈おいかがまる〉「老い屈まる」◇◎おいか、まりて（定）1ウ②、★大成151⑤同（新152⑥）、池1ウ①同、河89⑤同、陽3④同（おひ）

〈おいらかなり〉◇◎おひらかに「*「お」は右傍記＝補筆」(定)59ウ⑥、★大成194⑥同（おこ）（新197⑥）、池63ウ⑨同、河115⑧同（おこ）／陽27⑪（をこ）
 〈おく〉「起く」◇◎おきもあかりたまはず（定）33オ③、★大成

175③同（新177⑥）、池36オ③同、河103⑫同、陽16⑮同
 ◇◎おきいてたまひて（定）42ウ⑤、★大成182③同（新184⑪）、池46オ③同、河107⑯同（おきて）*異文、陽20⑭同
 ◇おほとこのこもりおきて（定）47オ②*重出、★大成185⑤同（新187⑬）*重出、河109⑭同*重出／池50ウ②（を）*重出、陽22⑩（を）*重出 ◇◎おきゐたり（定）56オ②、★大成191⑬同（新194⑪）、池60オ①同、河113⑮同、陽26②同 ねをきたまひて（定）56ウ③、★大成192⑤同（新195②）、陽26⑥同／池60ウ③（お）、河114①（お） ◇◎おきゐりて（定）57オ⑥、★大成192⑫同（新195⑨）、池61オ⑧同、河114⑥同、陽26⑪同
 〈ふしおき〉「臥し起き」◇◎ふしおきなど（定）61オ⑧、★大成195⑪同（新198⑧）、池65ウ②同、河116③同／陽28④（を）
 〈おく〉「置く」◎しをきる（定）5オ⑤、★大成154③同（新155⑥）、池5ウ⑦同、河91①同、陽4⑬同（しをける）*異文 ○おもひをきる（定）5ウ⑤、★大成154⑨同（新155⑬）、池6オ⑨同、河91⑤同／陽4⑰（お） ○し越きて（定）5ウ⑥、★大成154⑩同（を）（新155⑭）遺言ゆいしを（おきて侍るなる）、池6オ⑪同（を）／河91⑥当該語ナシ（しはへると）、陽4⑱当該語ナシ（し侍と） ○えをきたらし（定）6ウ①、★大成155④同（新156⑧）えを（おきたらし）、池7オ⑦同／河91⑫

(お)、陽5⑤(お) ○経を、きつ(定) 7ウ②、★大成156①
 同(を)(新157④)、池8ウ①同、河92④同(きやう、ちをき
 て) *異文/陽5⑬(經うちおきて) *異文 ◎みたまへをく
 (定) 37オ⑨、★大成178⑤同(新180⑩)、池ちウ⑥同、河
 105⑨同(見をきはへる) *異文、陽18⑨同(みをき侍) *異
 文 ○きこえをき給て(定) 38ウ④、★大成179④同(新181⑨)、
 池42オ①同(越) / 河106①(きこえおきて) *異文、陽18
 ⑬(お) ○をきつ(定) 46オ④、★大成184⑩同(新187④)、
 池49ウ⑤同、河109⑦同/陽22③(お) ○うちをきつ、(定)
 47オ③、★大成185⑥同(新187⑭)、池50ウ④同/河109⑮
 (お)、陽22⑪(お) ○しらくをきつ(定) 48ウ⑧、★大成
 186⑨同(新189③)、池52オ⑧同、河110⑩同/陽23④(お)
 ○おほせをきたれ(定) 52オ③ *重出、★大成188⑬同(新
 191⑨) *重出、池55ウ③同 *重出、河111⑰同 *重出/陽24
 ⑨(お) *重出 ○きこえをかむ(定) 53オ④、★大成189⑪
 同(新192⑧)、池56ウ⑦同(越)、陽24⑰同(きこえさせを
 かん) *異文/河112⑧(きこえさせおかん) *異文
 <こころおく> 「心置く」 ○心をくめりし(定) 48オ③、★大成186
 ①同(新188⑨)、池51ウ③同、河110④同/陽22⑰(心をお
 くめりし) *異文 ◎心をかれ(定) 61オ④、★大成195⑧同(新
 198⑥)、池65オ⑧同、河116①同(こころをかれんも) *異文、

陽38③同(心をかれんも) *異文
 <おくまる> 「奥まる」 ◇ ○おくまりたる(定) 4ウ⑤、★大成153
 ⑪同(新155①)、池5オ④同、河90⑭同(おくまれる) *異
 文/陽4⑨(を)
 <おくやま> 「奥山」 「歌」 ◇ ○おく山(定) 21ウ⑥、★大成157②
 同(新158⑨)、池24ウ①同、河98⑬同、陽11⑰同
 <おくらす> 「後らす」 「歌」 ◎ をくらす(定) 10オ②、★大成158
 ①同(新159⑤)、池11オ⑨同、河93⑥同、陽6⑮同 ○を
 くらさせたまへる(定) 23ウ②、★大成168⑤同(新169⑭)、
 池26オ⑦同(をくらすさせたまへる) * 「ら」左圈点、「さ」右補入
 / 河99⑧(おくらかさせたまへる) *異文、陽12⑬(おくら
 かせ給へる) *異文
 <おくり> 「送り」 ◎ 御をくりにも(定) 20ウ⑨、★大成166⑦同(新
 167⑮)、池23ウ⑤同、河98⑥同(御をくりも) *異文、陽11
 ⑨同 ○御をくり(定) 25ウ⑧、★大成170②同(新171⑬)、
 池28ウ⑧同、河100⑨同/陽13⑬(お) ○をくりせむかし(定)
 55オ③、★大成191③同(新193⑮)、池58ウ⑪同、河113⑦
 同/陽25⑬(お)
 <おくりもの> 「贈り物」 ○御をくり物とも(定) 22オ⑥、★大成
 167⑦同(新168⑭)、池25オ①同、河98⑬同/陽12③(お)
 <おくる> 「後る 遅る」 ○をくれて(定) 5ウ④、★大成154⑨同(新

- 155⁽¹³⁾、池6才⁽⁸⁾同、陽4⁽¹⁷⁾同／河91⁽⁵⁾（お）○をくれたま
 ひしほと（定）9ウ⁽³⁾、★大成157⁽¹⁰⁾同（新158⁽¹⁵⁾）、池10ウ⁽¹⁰⁾同、
 河93⁽²⁾同（を）くれたまへりしかと）＊異文／陽6⁽¹⁰⁾（お）くれ
 給へりしかと）＊異文 ○たちをくれ侍り（定）18ウ⁽⁸⁾、★大
 成164⁽¹³⁾同（新166⁽⁶⁾）、池21才⁽⁹⁾同／河97⁽⁷⁾（お）、陽10⁽⁹⁾
 （お）○をくれたてまつりし（定）40ウ⁽²⁾、★大成158⁽⁹⁾同（新
 183⁽²⁾）、池43ウ⁽⁹⁾同、河106⁽¹⁶⁾同／陽19⁽¹⁵⁾（お）○をくれ
 たまへる（定）55才⁽⁷⁾、★大成191⁽⁵⁾同（新194⁽³⁾）、池59才
 ⑤同／河113⁽⁹⁾（お）くれきこえたまへる）＊異文、陽25⁽¹⁵⁾（お）
 くれきこえたまへる）＊異文
- 〈みおこす〉「見遣す」◎見をこせたまへる（定）27才⁽⁴⁾、★大成
 171⁽¹⁾同（新172⁽¹²⁾）、池30才⁽⁵⁾同、河101⁽¹⁾同、陽14⁽⁴⁾同
- 〈おこす〉「起こす」◇◎おこして（定）56ウ⁽⁹⁾、★大成192⁽⁸⁾同（新
 195⁽⁵⁾）、池60ウ⁽¹⁰⁾同、河114⁽³⁾同、陽26⁽⁸⁾同
- 〈おこたる〉「怠る」○をこたりたまへる（定）20ウ⁽⁵⁾、★大成166
 ⑤同（新167⁽¹³⁾）、池23才⁽¹¹⁾同、陽11⁽⁸⁾同（を）たらせ給へる
 ＊異文／河98⁽⁴⁾（お）こたらせ給へる）＊異文
- 〈おこなひ〉「行心」○をこなひも（定）2才⁽⁷⁾、★大成151⁽¹⁴⁾同（新
 153⁽²⁾）、池2才⁽¹⁰⁾同、河89⁽¹²⁾同／陽3⁽¹⁰⁾（お）○をこなひ（定）
 3才⁽⁹⁾、★大成152⁽¹¹⁾同（新154⁽¹⁾）、池3ウ⁽⁴⁾同、河90⁽³⁾同
 ／陽3⁽¹⁸⁾（お）○をこなひ（定）25ウ⁽³⁾、★大成169⁽¹³⁾同（新
- 171⁽⁸⁾、池28ウ⁽¹⁾同（を）こなひ）／河100⁽⁷⁾（お）、陽13⁽¹¹⁾（お）
 〈おこなふ〉「行ふ」◎をこなふ（定）7才⁽⁹⁾、★大成155⁽¹⁴⁾同（新
 157⁽⁴⁾）、池8才⁽⁹⁾同、河92⁽²⁾同、陽5⁽¹²⁾同
 ○をこなふ（定）19ウ⁽⁸⁾、★大成155⁽¹⁰⁾同（新157⁽³⁾）、池22
 ウ⁽²⁾同、河97⁽¹⁵⁾同／陽10⁽¹⁷⁾（お）
- 〈おこなひびと〉「行ひ人」○をこなひと（定）1才⁽⁵⁾、★大成
 151⁽³⁾同（新152⁽³⁾）、池1才⁽⁶⁾同／河89⁽²⁾（お）、陽3⁽²⁾（お）
- 〈おこる〉「起こる」◇◎おこり（定）1才⁽³⁾、★大成151⁽²⁾同（新
 152⁽²⁾）、池1才⁽³⁾同、河89⁽¹⁾同、陽3⁽¹⁾同 ◇◎おこりて（定）
 1才⁽⁶⁾、★大成151⁽³⁾同（新152⁽³⁾）、池1才⁽⁷⁾同、河89⁽³⁾同、
 陽3⁽²⁾同 ◇◎おこらせ給はず（定）6ウ⁽⁷⁾、★大成151⁽⁷⁾同（新
 156⁽¹²⁾）、池7ウ⁽⁵⁾同、河91⁽¹⁵⁾同、陽5⁽⁸⁾同
- 〈おす〉「押す」○をしたてたまひつ（定）19ウ⁽⁷⁾、★大成155⁽⁹⁾同（新
 167⁽³⁾）、池22才⁽¹¹⁾同、河97⁽¹⁵⁾同（を）したてたまふつ）／陽10
 ⑬（お）◎めをしのこひたまふ（定）24ウ⁽⁸⁾、★大成159⁽⁶⁾同（新
 170⁽¹⁵⁾目を（お）しのひ給たまふ）、池27ウ⁽⁸⁾同、河100⁽²⁾同、
 陽13⁽⁶⁾同 ◎をしつゝ、みたまへる（定）29才⁽²⁾、★大成172
 ④同（新174⁽³⁾）、池32才⁽¹⁾同、河101⁽¹⁵⁾同、陽14⁽¹⁷⁾同 ○を
 しよせたてまつり（定）43才⁽⁶⁾、★大成182⁽⁹⁾同（新185⁽³⁾）、
 池46ウ⁽⁴⁾同、河108⁽²⁾同／陽20⁽¹⁸⁾（お）○（を）しゝく、
 みて（定）4ウ⁽⁷⁾、★大成183⁽¹⁰⁾同（新186⁽⁴⁾単衣ひとばかりを、

〈お〉しく、みて、池48オ⑥同、河108⑭同(を)／陽21⑫(お)
〈おしなぶ〉「押し並ぶ」○越しなへたらぬ(定)28ウ④、★大成
172①同(を)(新173⑬)、池31ウ④同(を)／河101⑫*当
該語ナシ(なへてならぬ)、陽14⑭*当該語ナシ(なへてならぬ)
〈おす〉「推す」○をしのたまへは(定)13ウ⑨、★大成15②同(を)
しあてにの給へは) *異文(新162⑦)、池15ウ⑧同(をしあ
てにの給へは) *異文、河95③同(をしあてにの給へは) *異
文／陽8⑧(おしあてにのたまへは) *異文

〈おしはかる〉「推し量る」○をしはかられぬ(定)52オ⑦、★大
成189①同(新191⑫)、池55ウ⑧同、河112①同／陽24⑩(お
おそろし)〈「恐ろし」〉◇◎おそろしう(定)13オ①、★大成160
⑥同(新161⑪)、池14ウ⑥同、河94⑬同、陽8①同(おそろ
し)◇◎おそろしうのみ(定)32ウ⑤、★大成174⑬同(新
177①)、池35ウ⑤同、河103⑧同(さま／＼おそろしく) *
異文、陽16⑫同(さま／＼おそろしく) *異文 ◇◎おそろし
からむ(定)40ウ⑧、★大成188⑫同(新183⑥)、池4オ⑤
同、河107①同(ものおそろしからん) *異文／陽19⑫(もの
をそろしからん) *異文 ◇◎おそろしうて(定)43ウ③、★
大成182⑫同(新185⑥)、池47オ①同、河108⑤同(おそろ
しとおほして) *異文 *重出、陽21③同(おそろしとおほして)
*異文 *重出 ◇◎おそろしう(定)4ウ④、★大成188⑧同

(新186③)、池48オ③同、河108⑬同、陽21⑩同(おそろし)◇
◎おそろしと(定)33ウ⑦、★大成190④同(新192⑮)、
池57ウ①同、河112⑭同(いとおそろしと) *異文、陽25④
同(いとおそろしと) *異文

〈そらおそろし〉「空恐ろし」◇◎そらおそろしう(定)33ウ⑨、
★大成175⑪同(新177⑮)、池25オ①同、河103⑱同(そら
おそろしく)、陽17②同(そらおそろし)◇
ものおそろし)〈「物恐ろし」〉◇◎物おそろしきよ(定)4オ⑥、

★大成183④同(新185⑭)ものおそろしき夜)、池47ウ⑤同／
河108⑩*当該語ナシ(ものさはかしきよ)、陽21⑦*当該語
ナシ(ものさはかしき夜「は」右に「わ」傍記)

〈おつ〉「落つ」◇◎おつる(定)9オ⑧、★大成157⑦同(新158⑫)、
池10ウ③同／河92⑱*当該語ナシ(こほれぬる)、陽6⑧*当
該語ナシ(こほれぬる)◇◎おちくる(定)23ウ⑤、★大成
168⑦同(新170①)、池26ウ①同、河99⑩同、陽12⑮同

〈おづ〉「怖づ」○をちす(定)4オ③、★大成183⑬同(新186⑦)、
池48ウ②同、陽21⑬同／河108⑯(お)

〈ものおぢ〉「物怖ぢ」○物をち(定)4ウ④、★大成184⑤同(新
186⑭)、池49オ⑤同、陽21⑰同／河109③(お)

〈おと〉「音」○たつと(定)10ウ⑨、★大成158⑪同(新159⑯)、
池12オ⑦同、河93⑬同、陽7④同 ○越と(定)16オ③、池

18オ⑦同(を)、河96③同(を)、陽9⑥同(を)／★大成162⑪(お)(新154③)○をと(定)16ウ①、★大成153①同(新164⑦)、池18ウ④同／河96⑥*当該語ナシ、陽9⑧*当該語ナシ ○たきのをと(定)20オ①、★大成155⑪同(新157④)、池22ウ④同、河97⑬同／陽10⑬(お)「歌」○たきのをと(定)20オ③、★大成165⑫同(新167⑤)、池22ウ⑦同、河97⑬同／陽11②(お)○をと(定)38オ⑥、★大成178⑬同(新181④)、池41ウ②同、河105⑯同／陽18⑮(お)

〈おとす〉「落とす」なみたを」としあへり(定)24ウ②、陽13③同(を)／★大成169②(お)(新170⑪)、池27オ⑩(お)、河99⑬(お)〈おとじる〉「訪る」○を」とつれたまはさりけるを(定)40オ③、★大成180④同(新182⑫)、池43オ⑩同／河106⑬*当該語ナシ(を)としまはねは—*音す)、陽19⑫*当該語ナシ(を)とし給はねは—*音す)

〈おとど〉「大殿・大臣」◎大臣(定)4オ⑨、★大成153⑧同(新154⑬)、池4ウ⑧同、河90⑪同、陽4⑦同 ◇◎おと、(定)26オ⑧、★大成170⑦同(新172④お)とせちに聞(き)こ(と)、池29オ⑨同、河100⑭同、陽13⑬同 ◎大臣(定)40オ①、★大成180③同(新182⑪)、池43オ⑧同、河106⑫同、陽19⑪同 ◇◎おと、(定)56オ③、★大成191⑭同(新194⑫御殿おととの造(くりやま)、池60オ②同、河113⑮同、陽26②同)

〈おとな〉「大人」◇◎おとな(定)7ウ⑦、★大成156④同(新157⑨)、池8ウ⑨同、河92⑥同、陽5⑮同 ◇◎おとな(定)8オ⑨、★大成156⑪同(新188①)、池9ウ②同、河92⑪同／陽6②(を)◇○ゐたるおとな(定)10オ③、★大成158②同(新159⑥)、池11オ⑩同、河93⑥同／陽6⑮(ねたるを)とな)*異文 ◇◎おとな(定)15ウ③、★大成162⑥同(新163⑫)、池17ウ⑤同、河95⑰同／陽9②(を)

〈おとなおとなし〉「大人大人し」◇◎おとなくしう(定)18ウ②、★大成164⑨同(新166②)、池20ウ⑪同／河97④(いとをとなしく)*異文、陽10⑦(を)となくしう)

〈おとなひ〉◎をとなひ(定)16ウ②、★大成163①同(新164⑦)うちそよめくを(お)となひ)、池18ウ⑥同、河96⑥同、陽9⑧同

〈おとる〉「劣る」◇◎おとりやせむ(定)39ウ③、★大成179⑭同(新182⑥)、池42ウ⑪同、河106⑨同、陽19⑦同

〈こころおとり〉「心劣り」○御心をとりせさせたまひぬ(定)13ウ①、★大成160⑪同(新162①)、池15オ⑦同、陽8⑤同／河94⑬(こころおとりせさせたまひぬ)*異文

〈おどろおどろし〉◇◎おどろしう(定)34オ①、★大成175⑫同(新178①)、池37オ②同、河103⑱同(おどろしう)陽17③同

〈おどろかす〉「驚かす」◇◎お|とろかし(定) 24オ⑦、★大成168
⑭同(新170⑧)、池27オ⑤同、河99⑮同、陽13②同 ◇◎
お|とろかしたまふに(定) 53ウ②、★大成150①同(新192⑬)、
池57オ⑥同、河112⑫*当該語ナシ(お|し給に)、陽25②*
当該語ナシ(お|し給に)

〈おどろく〉「驚く」◇◎お|とろき(定) 2オ⑨、★大成15⑭同(新
153③)、池2ウ①同、河89⑫同、陽3⑩同 ◇◎お|とろきな
から(定) 11ウ①、★大成159③同(新160⑧)、池12ウ⑪同、
河93⑱同、陽7⑧同 ◇◎お|とろきこゆ(定) 33オ⑦、★
大成175⑤同(新177⑨)、池36オ⑧同、陽16⑯同(お|とろき、
こゆるに) *異文、河103⑬*当該語ナシ(文順錯綜) ◇◎お|
とろきて(定) 36オ⑨、★大成177⑨同(新179⑭)、池39ウ
④同、河105①同、陽18②同 ◇◎お|とろいたまはしな(定)
53オ⑧、★大成189⑬同(新192⑪)、池57オ②同、河112⑩同、
陽25①同 ◇◎お|とろきて(定) 53ウ③、★大成190①同(新
192⑬)、池57オ⑦同、河112⑫同、陽25②同

〈おとろふ〉「衰ふ」◇◎お|とろへにけり(定) 25オ⑧、★大成169
⑪同(新171⑥)、池28オ⑧同、河100⑤同、陽13⑨同

〈おなじ〉「同じ」◇◎お|なし(定) 2ウ⑥、★大成152④同(新153⑦)、
池2ウ⑨同、河89⑮同、陽3⑬(を) ◇◎お|なし、はのいほ
り(定) 12オ⑦、★大成159⑫同(新161②)、池13ウ⑩同、

河94⑦同、陽7⑬同 ◇◎お|なしきくさ(定) 12ウ③、★大
成160①同(新161⑥同おなし木草)、池14オ⑥同、河94⑨同、
陽7⑮同 ◇◎お|なしさまに(定) 19オ①、★大成164⑭同(新
166⑦)、池21オ⑪同、河97⑧同、陽10⑩同 ◇◎お|なしさま(定)
22ウ⑥、★大成167⑫同(新169⑤)、池25ウ①同、河99②
同、陽12⑥同 ◇◎お|なしうは(定) 24オ⑥、★大成168⑬
同(新170⑧)、池27オ④同、河99⑮同、陽13①同(お|なし
ふは) ◇◎お|なしさま(定) 29ウ③、★大成172⑱同(新174
⑫)、池32ウ③同、河102②同、陽15④同 ◇◎お|なしと(定)
30ウ⑥、★大成173⑦同(新175⑨)、池33ウ⑤同、河102⑩同、
陽15⑭同 ◇◎お|なしさま(定) 35オ⑩、★大成176⑬同(新
179③)、池38ウ③同、河104⑪同、陽17⑬同 ◇◎お|なし人
(定) 39オ①、★大成179⑦同(新181⑬)、河106④同、陽19
③同 ◇◎お|なしくは(定) 45オ⑥、★大成184①同(新186⑩)、
池48ウ⑦同、河108⑱同、陽21⑮同 ◇◎お|なしうこそ(定)
45ウ⑧、★大成184⑦同(新187②)、池49オ⑪同、河109⑤同、
陽22①同(お|なしうこそ) ◇◎お|なし人そ(定) 53ウ⑧、★
大成190④同(新193①)、池57ウ②同、河112⑫同、陽25④
同

〈おのが〉「己が」○を|のか(定) 8ウ⑦、★大成157②同(新158⑥)、
池10オ①同、河92⑭同、陽6④(お)

- 〈おのづから〉○をのづから(定)17ウ①、★大成163⑩同(新165③)、池19ウ⑥同、陽9⑬同／河96⑬(お) ○をのづから(定)18ウ②、★大成164⑨同(新166②)、池20ウ⑪同、陽10⑥同／河97④(お) ○をのづから(定)54オ⑥、★大成150⑨同(新193⑥)、池58オ②同／河112⑱(お)、陽25⑦(お) ○越のづから(定)61オ⑤、★大成195⑨同(を)(新198⑥)、池65オ⑨同(を)／河116①(お)、陽28③(お)
- 〈おのれ〉◎越のれ(定)9ウ⑤、★大成157⑪同(を)(新159①)、池10ウ⑪同(を)、河93③同(を)、陽6⑪同(を)
- をのれ(定)48ウ③、★大成186⑥同(新188⑮)、池52オ③同／河110⑧(お)、陽23③(お)
- 〈おば〉「祖母」○をは(定)15ウ④、★大成162⑦同(新163⑬)、池17ウ⑦同、陽9③同／河95⑱(お)
- 〈おはします〉「御座します」◇○○おはします(定)2オ⑥、★大成151⑬同(新153①)、池2オ⑧同、河89⑪同／陽3⑨*当該語ナシ(おほします) ◇○○おはしましたらむ(定)2オ⑧、★大成151⑭同(新153③)、池2オ⑪同／河89⑫*当該語ナシ(おはしたらん)、陽3⑩*当該語ナシ(をはしつ覽) ◇○○おはしましたけるを(定)7オ①、★大成155⑨同(新156⑬)、池7ウ⑧同／河91⑯*当該語ナシ(見えさせたまふを)、陽5⑨*当該語ナシ(みえさせ給を) ◇○○おはしましたける(定)10オ⑦、★大成158④同(新159⑨)、池11ウ④同、河93⑧同／陽6⑰(を) ◇○○よきりおはしましたける(定)11オ⑨、池12ウ⑩同、河93⑰同(よきりおはしましたる)*異文／★大成159②(を)(新160⑦過よきりを)おはしましたける、陽7⑧(よきりをはしましたる)*異文 ◇○○おはしましたけること(定)23オ⑦、★大成168③同(新169⑪)、池26オ②同／河99⑥*当該語ナシ(うてさせたまひにける)、陽12⑫*当該語ナシ(うてさせ給にける事) ◇○○おはしませよ(定)25オ③、★大成169⑧同(新171②)、池28オ①同、河100③同／陽13⑦(を) ◇○○おはしますらむ(定)26オ④、★大成170⑤同(新172②)、池29オ④同、河100⑫同／陽13⑮(を) ◇○○おはしますらぬは(定)29ウ⑨、★大成175①同(新177⑤)、池35ウ⑩同／河103⑩*当該語ナシ(おほされぬは)、陽16⑭*当該語ナシ(おほされぬは) ◇○○おはしましたける(定)33ウ⑥、★大成175⑨同(新177⑬)、池36ウ⑧同／河103⑯*当該語ナシ、陽17⑰*当該語ナシ ◇○○おはしまして(定)35オ②、★大成176⑧同(新178⑫)、池38オ④同、河104⑦同／陽17⑩(を) ◇○○おはしましたる(定)36オ⑧、★大成177⑨同(新179⑭)、池39ウ④同、河105①同／陽18②(を) ◇○○おはします(定)42ウ④、★大成182②同(新184⑪)、池46オ②同、河107⑯同／陽20⑭(を) ◇○○おはしますましかは(定)45オ⑥、★大

成 184 ①同(新 186 ⑩)、池 8ウ ⑦同、河 108 ⑱同／陽 21 ⑮(を)
 ◇○○おはしましなむ(定) 8オ ⑤、★大成 186 ②同(新 188 ⑪)、
 池 51ウ ⑥同、河 110 ⑤同／陽 22 ⑱(を) ◇○○おはします(定)
 52ウ ⑩、★大成 189 ⑧同(新 192 ⑥)、池 56ウ ②同、河 112 ⑦
 同／陽 24 ⑮(を) ◇おはしますは(定) 54オ ⑦、★大成 190
 ⑨同(新 193 ⑦)、河 112 ⑱同／池 58オ ③(を)、陽 25 ⑦(を)
 〈おはす〉「御座す」◇○○おはす(定) 1ウ ⑤、★大成 191 ⑦同(新
 152 ⑧)、池 1ウ ⑤同、河 89 ⑥同(おはするに) *異文／陽 3
 ⑤ *当該語ナシ(おほするに) ◇○○おはする(定) 1ウ ⑦、★
 大成 191 ⑨同(新 152 ⑩)、池 1ウ ⑨同、河 89 ⑧同／陽 3 ⑥
 (を) ◇○○世におはせむとすらむ(定) 9ウ ⑤、★大成 157 ⑪
 同(新 159 ②)、池 11オ ②同／河 93 ③ *当該語ナシ(したまは
 んすらん)、陽 6 ⑪ *当該語ナシ(し給はんすらん) ◇○○おは
 しぬ(定) 12ウ ②、★大成 160 ①同(新 161 ⑤)、池 14オ ⑤同
 ／河 94 ⑧ *当該語ナシ(おはします)、陽 7 ⑮ *当該語ナシ(を
 はします) ◇○○おはするとそ(定) 17ウ ③、★大成 163 ⑬同(新
 165 ⑤)、池 19ウ ⑩同、河 96 ⑮同(おはすると) *異文／陽 9
 ⑰(を) ◇○○おはしぬれは(定) 19ウ ⑤、★大成 165 ⑨同(新
 167 ②)、池 22オ ⑨同、河 97 ⑭同／陽 10 ⑯(を) ◇○○おはし
 つ(定) 32オ ⑨、★大成 174 ⑩同(新 176 ⑭)、池 35オ ⑩同、
 河 103 ⑥同／陽 16 ⑰(を) ◇○○もりおはすれば(定) 32ウ

④、★大成 174 ⑫同(新 177 ①)、池 35ウ ③同、河 103 ⑧同／
 陽 16 ⑮(を) ◇○○おはしたなれ(定) 38オ ⑦、★大成 178 ⑭
 同(新 181 ⑤)、池 41ウ ④同、河 105 ⑯同(おはすなれ) *異
 文／陽 18 ⑮(を)はすなれ *異文 ◇○○おはしたり(定) 4ウ
 ⑥、★大成 180 ⑪同(新 183 ⑤)、池 4オ ③同、河 106 ⑱同
 ／陽 19 ⑰(を) ◇○○おはする(定) 42ウ ④、★大成 182 ②同(新
 184 ⑪)、池 46オ ②同、河 107 ⑮同(おはす) *異文／陽 20 ⑭
 (を) ◇○○おはするか(定) 42ウ ⑥、★大成 182 ④同(新 184
 ⑫)宮のおはするか、池 4オ ⑤同、河 107 ⑯同／陽 20 ⑮(を)は
 する *異文 ◇○○おはしたる(定) 42ウ ⑦、★大成 182 ④同
 (新 184 ⑬)、池 4オ ⑥同、河 107 ⑰同(おはする) *異文／陽
 20 ⑮(を)はする *異文 ◇○○おはせちらましかは(定) 45オ
 ⑤、★大成 183 ⑭同(新 186 ⑨)、池 48ウ ⑤同、河 108 ⑰同／
 陽 21 ⑮(を) ◇○○おもひおはす(定) 46オ ⑤、★大成 184 ⑪
 同(新 187 ⑤)、池 49ウ ⑦同(おもひおはする) *「る」見せ
 消し「河 109 ⑦同／陽 22 ③(を) ◇○○おはしぬ(定) 46ウ ⑨、
 ★大成 185 ④同(新 187 ⑫)、池 50オ ⑩同、河 109 ⑱同／陽 22
 ⑩(を) ◇○○おはしけるに(定) 51ウ ①、★大成 188 ⑥同(新
 191 ③)、池 54ウ ⑩同、河 111 ⑫同／陽 24 ④(を) ◇○○おは
 しぬ(定) 52ウ ⑦、★大成 189 ⑥同(新 192 ③)、池 56オ ⑨同、
 河 112 ⑤同／陽 24 ④(を) ◇○○おはしたると(定) 53ウ ③、

- ★大成190②同(新192⑭)・池57オ⑧同・河112⑫同／陽25③(を) ◇○おはして(定)54ウ⑦・★大成190⑭同(新193⑫)・池58ウ④同・河113⑤同／陽25⑪(を) ◇○なおはせそ(定)56ウ⑨・池60ウ⑪同・河114③同(なおはせそよ) *異文／★大成192⑧(を)(新195⑥)・陽26⑧(なをはせそよ) *異文 ◇○おはするも(定)57ウ⑥・★大成193③同(新195⑬)・池61ウ⑨同・河114⑩同／陽26⑭(を) ◇おはせず(定)60ウ①・★大成195②同(新197⑭)・河115⑭同／池64ウ③(を)・陽27⑯(を) ◇○おはすれば(定)60ウ⑦・★大成195⑤同(新198②)・池64ウ⑪同・河115⑯同／陽27⑱(を)
- 〈おひくく〉「生ひ出く」◇○おひく、(定)6オ⑤・★大成155①同(新156⑤)・池7オ①同・河91⑩同(おこ、つ、)／陽5③(を) ◇○おひくちち(定)27ウ⑦・★大成171⑧同(新173⑤)・池30ウ⑩同・河101⑦同／陽14⑨(を)
- 〈おひくき〉「生ひ先」◇○おひくき(定)8オ②・★大成156⑦同(新157⑱)・池6オ③同・河92⑦同・陽5⑭同(おこくき) ◇○おひくき(定)59オ①・★大成194①同(おこくき)(新196⑫)・池63オ①同・河115②同・陽27⑥同(おこくき)
- 〈おひたつ〉「生ひ立つ」【歌】◇○おひた、む(定)10オ①・池11オ⑧同・河93⑥同・陽6⑭同／★大成158①(を)(新159⑤)
- 〈おひゆく〉「生ひ行く」【歌】◇○おひゆくすゑ(定)10オ④・★大成158③同(新159⑦)・池11オ⑪同・河93⑦同／陽6⑬(を)
- 〈おひかせ〉「追ひ風」○御をひかせ(定)12ウ⑦・★大成150④同(新161⑨)・池14ウ②同／河94⑪(おひ風) *異文、陽7⑰(おねおびる)「寝おびる」ねをひれて(定)33ウ④・★大成190②同(新192⑭)・陽25③同(ねをひれたる心ちに) *異文／池57オ⑧(お)・河112⑫(ねおひれたるこ、ちに) *異文
- 〈おふ〉「負ふ」◇○もときおひなむ(定)51ウ⑨・★大成188⑪同(新191⑧)・池55オ⑩同／河111⑯(を)・陽24⑦(を)
- 〈おほえなし〉「覚え無し」◇○おほえなき心ち(定)16ウ⑤・★大成163③同(新164⑨)・池18ウ⑩同・河96⑦同・陽9⑨同
- 〈おほかた〉「大方」◇○おほかたの(定)30オ④・★大成173①同(新175②)・池33オ③同(おほかた) *異文、河102⑥同 *異文「文の前後の順序異なる」・陽15⑧同 *異文「文の前後の順序異なる」
- 〈おほかり〉「多かり」◇○おほくて(定)14オ⑧・★大成161⑦同(新162⑫)・池16オ⑧同・河95⑦同・陽8⑪同 ◇○おほくて(定)16オ⑥・★大成162⑬同(新164⑤)・池18オ⑪同・河96⑤同・陽6⑦同 ◇○おほかり(定)27ウ⑦・★大成171⑦同(新173④)・池30ウ⑨同／河101⑥ *当該語ナシ、陽14⑨ *当該語ナシ ◇○おほかる人(定)30オ⑤・★大成173①同(新175②)・池33オ④同／河102⑥ *当該語ナシ(とはある人にて)・陽15⑧ *当該語ナシ(とはある人にて) ◇○

おほく(定) 35オ⑧、★大成176⑪同(新178⑮)、池38オ⑩同、
河104⑩同/陽17⑫*当該語ナシ ◇◎おほく侍るに(定) 41
ウ①、★大成181④同(新183⑬)、池44ウ⑧同、河107⑤同、
陽20③同 ◇◎多などおほく(定) ㊦ウ⑨、★大成183⑪同(新
186⑥)、池48オ⑨同/河108⑮*当該部ナシ、陽21⑫*当該
部ナシ

〈おほしたつ〉「生ほし立つ」◇◎おほしたて、(定) 14ウ⑥、★
大成161⑪同(新183①教をしへ生おほし立たてて、見みばや)、
池16ウ⑥同/河95⑩*当該語ナシ(おしへたて、見はや)、陽
8⑭*当該語ナシ(おしゑたて、みはや)

〈おほす〉「仰す」◇◎おほせをきたれ(定) 32オ③*重出、★大
成188⑬同(新191⑨)*重出、池55ウ③同*重出、河111⑰
同*重出、陽24⑨同(おほせおきたれ)*重出

〈おほせこと〉「仰せ言」◇◎おほせこと(定) 15オ⑨*「こと」補筆、
★大成162④同(新163⑩)、池17ウ②同、陽9①同(おほせ事)
/河95⑯*当該語ナシ(おほせ)

〈おほつかなし〉◇◎おほつかなく(定) 17オ②、★大成163⑦同
(新164⑬)、池19オ⑧同、河96⑩同(おほつかかな) *異文、
陽9⑫同 ◇◎おほつかならず(定) 19ウ①、★大成165⑥
同(新166⑬)、池22オ③同、陽10⑭同/河97⑫*当該部ナ
シ ◇◎おほつかなるへし(定) ㊦ウ②、★大成184④同(新

186⑬)、池49オ③同、河109②同、陽21⑰同 ◇◎おほつか
なければ(定) 54オ①、★大成190⑥同(新193③)、池57ウ
⑥同、河112⑮同/陽25⑤*当該部ナシ 「歌」◇◎おほつか
な(定) 38ウ⑧、★大成193⑭同(新196⑪)、池62ウ⑩同、
河115②同、陽27⑤同

〈おほつかながる〉◇◎おほつかなからせ給へる(定) 21オ③、★
大成166⑨同(新168②)、池23ウ⑨同、河98⑧同、陽11⑪同(お
ほつ□なからせたまへる) *「同表記例トスル」◇◎おほつか
なかり(定) 31オ①、★大成173⑨同(新175⑪)、池33ウ⑪同、
河102⑫同、陽15⑬同

〈おほつかなさ〉◇◎おほつかなさ(定) 37オ②、★大成178①同(新
180⑨)、池40オ⑧同、河105⑥同、陽18⑥同

〈おほとのごもる〉「大殿籠る」◇◎おほとのごもりいりて(定) 38
オ④、★大成178⑫同(新181③)、池41ウ①同(おほとのご
も|おほとのごもりいりて) *「おほとのごも」見せ消ち、河105
⑮同(おほとのごもりたる) *異文、陽18⑭同(おほとのご
もりたる) *異文 ◇◎おほとのごもれよ(定) ㊦オ③、★大成
182⑦同(新185①)、河108①同、陽20⑰同/池46ウ②(御
とのごもれよ) ◇◎おほとのごもりおきて(定) ㊦オ①*重出、
★大成185⑤同(新187⑬大殿おほとのご籠こもり起おきて) *重出、
池50ウ①同(おほとのごもりをきて) *重出/河109⑭(御と

のこもりおきて) *重出、陽22⑩(御とのこもりをきて) *重出 ○御とのこもりて(定) 53オ①、★大成189⑨同(新192⑥御殿との籠こもりて)、池56ウ③同/河112⑦(おほとこのもりて)、陽24⑯(おほとこのもりて) ◇◎おほとこのもりぬ(定) 55ウ⑤、★大成191⑨同(新194⑦)、池59ウ③同、河113⑫同、陽25⑰同 ◇◎おほとこのもるまじきそよ(定) 55ウ⑨、★大成191⑫同(新194⑩)、池59ウ⑧同、河113⑬同、陽26⑱同

〈おほみき〉「大御酒」◇◎おほみき(定) 21オ②、★大成166⑧同(新168①)、池23ウ⑧同/河98⑦(御みき)、陽11⑩(御みき)

〈おほめく〉◇◎おほめきたまはむも(定) 17オ③、★大成163⑦同(新164⑭)、池19オ⑨同(おほめきたまはんも) *「同表記例トスル」、河96⑪同、陽9⑬同

〈おほやけ〉「公」◇◎おほやけに(定) 25ウ③、★大成189⑬同(新171⑨)、池28ウ②同、河100⑦同、陽13⑪同

〈おほゆ〉「覚ゆ」◇◎おほえたる(定) 8オ⑥、★大成156⑩同(新157⑭)、池9オ⑨同、河92⑨同(おほえたまへは) *異文、陽5⑱同(おほえ給へは) *異文 ◇おほゆる(定) 8ウ⑧、★大成157②同(新158⑦けふあすにおほゆる)、河92⑭同、陽6⑤同/池10オ② *当該語ナシ(けふあすになりぬる)

越ほえたまふ(定) 13オ⑤、★大成160⑧(お)(新161⑬)、

池14ウ⑪(お)、河94⑮ *当該語ナシ(おほさるゝ)、陽8② *当該語ナシ(おほさるゝ) ◇◎おほえ侍らねは(定) 18ウ①、★大成164⑨同(新166①)、池20ウ⑩同/河97④ *当該語ナシ(おもふたまへゝ)、陽10⑥ *当該語ナシ(思たまへゝ) ◇◎おほえたまはず(定) 24ウ⑤、★大成169④同(新170⑬)、池27ウ③同/河99⑮ *当該語ナシ(見えたまはず)、陽13④ *当該語ナシ(みえ給はず) ◇◎おほえ給らむ(定) 28オ④、★大成171⑪同(新173⑧)、池31オ⑥同、河101⑩同、陽14⑪同 ◇◎おほゆ(定) 28オ⑥、★大成171⑫同(新173⑨)、池31オ⑨同、河101⑪同/陽14⑫ *当該語ナシ(おほす) ◇◎おほえぬそ(定) 31オ⑧、★大成173⑬同(新175⑮)、池34オ⑧同/河102⑮ *当該語ナシ、陽15⑱ *当該語ナシ ◇◎おほえ給(定) 32ウ⑤、★大成174⑬同(新177②)、池35ウ⑥同、河103⑨同、陽16⑫同 ◇◎おほえつ(定) 34オ⑥、★大成175⑭同(新178③)、池37オ⑧同/河104⑲ *当該語ナシ(おほして)、陽17⑮ *当該語ナシ(おほして) ◇◎おほえす(定) 36オ③、★大成177⑥同(新179⑩)、池39オ⑧同、河104⑰同、陽17⑱同(おほす) *「ほす」に「え」右補筆↓同表記例トスル」 ◇◎おほえ侍らぬ(定) 38オ①、★大成178⑪同(新181①)、池41オ⑦同/河105⑭ *当該語ナシ(思給へはへらぬを)、陽18⑬ *当該語ナシ(おもひ給へ侍ぬを) ◇

◎おほえ給も(定) 42オ①、★大成181⑨同(新184③)、池45オ⑧同、河107⑨同、陽20⑦同 ◇○おほえて(定) 44ウ⑥、★大成183⑩同(新186④)、池48オ⑥同/河108⑭*当該語ナシ、陽21⑪*当該語ナシ ◇○おほえたまへと(定) 44ウ⑦、★大成183⑩同(新186⑤)、池48オ⑧同/河108⑭*当該語ナシ(おほさるれば)「文順も先後異なる」、陽21⑪*当該語ナシ(おほさるれば)「文順も先後異なる」◇○おほえて(定) 45オ③、★大成183⑬同(新186⑧)、池48ウ③同、河108⑰同、陽21⑭同 ◇○おほえたまはめ(定) 45ウ⑨、★大成184⑱同(新187②)、池49オ⑪同、河109⑤同、陽22①同 ◇○おほえ給て(定) 51ウ②、★大成188⑦同(新191④)、池55オ①同、河111⑫同、陽24⑤同 ◇○おほえず(定) 56オ②、★大成191⑬同(新194⑪)、池59ウ⑪同、河113⑮同(おほえて)*異文、陽26②同(おほえて)*異文 ◇○おほゆれば(定) 58ウ⑤、★大成193⑫同(新196⑨)、池62ウ⑦同、河114⑱同、陽27③同

〈おほろけなり〉◇○おほろけには(定) 56ウ②、★大成192④同

「ほ」補入(新195①)、池60オ⑪同(おほろけるけには)

「る」改頁行頭の見せ消し、河113⑱同、陽26⑤同

〈おまじ〉「御座」◇○おまじなど(定) 55ウ③、★大成191⑧同(新194⑥)、池59ウ①同、河113⑱同(おまじ〈など〉)陽

25⑰御ましなど

〈おましどころ〉「御座所」◇○おまし所(定) 36ウ⑥、★大成177⑬同(新180④)、池40オ②同、河105④同、陽18④同

〈よるのおまし〉「夜の御座」◇○よるのおまし(定) 27ウ②、★大成171⑤同(新173①)、池30ウ④同、河101⑤同、陽14⑦同(おまし)*異文

〈おもかけ〉「面影」◇○おもかけ(定) 13オ⑤、★大成160⑧同(新161⑬)、池15オ①同、河94⑮同、陽8③同(おもかけ)

「歌」◇○おもかけは(定) 28ウ⑦、池31ウ⑧同、河101⑭同、陽14⑯同/★大成172③(面影は)(新174①)

〈おもし〉「重し」◇○おもく(定) 37オ①、河105⑤同、陽18⑥同/★大成178①(を)(新180⑨)、池40オ⑦(越)

〈おもしろし〉「面白し」◇○おもしろきうら／＼(定) 4オ②、★大成153④同(新154⑧おもしろき浦うら)、池4オ⑨同、河90⑧同、陽4④同 ◇○おもしろくて(定) 57ウ③、★大成193①同(新195⑬)、池61ウ⑤同/河114⑹*当該部ナシ、陽26⑬*当該部ナシ

〈おもつ〉「表面」◇○おもてを(定) 4オ⑥、★大成153⑥同(新154⑪海うみのおもてを)、池4ウ③同、河90⑩同、陽4⑥同

◇にしおもて(定) 7オ⑧、★大成155⑬同(新157④)、陽5⑫同/池8オ⑧(を)、河92②(を) ◇みなみおもて(定) 12

ウ⑤、★大成150②同(新161⑦)、河94⑩同、陽7⑩同／池14オ⑨(を)

〈おもむけ〉「趣け・赴け」◇おもむけを(定)41オ⑥、★大成181②同(新183⑩人のおもむけを)／池44ウ③*当該語ナシ(おもむきをも)、河107③*当該部ナシ(御けしきありさまも)、陽20②*当該部ナシ(御けしき有さまも)

〈おもやす〉「面瘦す」◇◎おもやすたまへる(定)35オ①、★大成176⑦同(新178⑪)、池38オ②同、河104⑦同、陽17⑨同◇◎おもやすたまへれと(定)48ウ①、★大成186⑤同(新188⑭)、池51ウ⑪同、河110⑦同、陽23②同

〈おや〉「親」◇◎おや(定)6オ⑥、★大成155①同(新156⑤)、池7オ①同、河91⑩同／陽5③(を)◇◎おや(定)60ウ⑥、★大成195⑤同(新198①)、池64ウ⑨同、河115⑩同、陽27⑱同

〈おゆ〉「老ゆ」◇◎おいたる(定)24ウ③、★大成169③同(新170⑫)、池27オ⑪同、河99⑰同／陽13④(を)ひたる)

〈およびな〉「及びな」○をよひなう(定)34オ③、★大成175⑬同(新178②)、池37オ④同／河104①(およひなく)、陽17④(およひなく)

〈おる〉「下る」◇◎おりて(定)3オ⑦、★大成152⑩同(新153⑭)、池3ウ②同、河90②同／陽3⑰(を)◇◎おり給(定)54ウ⑧、

★大成190⑭同(新193⑬)、池58ウ⑤同、河113⑤同／陽25⑪(を)◇◎おりぬ(定)55オ③、★大成191③同(新194①)、池59オ①同、河113⑦同／陽25⑬(を)

〈おろかなり〉「疎かなり・愚かなり」○をろかなるにぞ(定)49ウ⑥、★大成187③同(新189⑬)、池53オ⑥同、河110⑰同(を)ろかなるとぞ)*異文／陽23⑪(おろかなるとぞ)*異文「*手紙」○(こぬを)、ろかにや(定)51オ④、★大成158③同(を)(新190⑬)、池54ウ②同／河111⑨(お)、陽24②(お)

〈やまおろし〉「山嵐」◇◎山おろし(定)19ウ⑨、★大成155⑪同(新167④)、池22ウ③同／河97⑱(を)、陽10⑰(を)

〈みやまおろし〉「深山嵐」「歌」○みやまをろし(定)20オ②、池22ウ⑥同、河97⑰同／★大成155⑫(お)新167⑤、陽11①(お)〈おろす〉「下ろす」◇◎かしらもおろし(定)4ウ④、★大成153⑪同(新154⑮頭かしらもおろし)、池5オ④同、河90⑭同(かしらおろし)*異文、陽4⑨同(かしらおろし)*異文◇◎

すたれおろし(定)10ウ④、★大成158⑧同(新159⑫)、池12オ①同、河93⑪同／陽7②(を)越ろしたまふ(定)54ウ⑨、★大成191①(お)(新193⑬)、池58ウ⑥(お)、河113⑤(お)、陽25⑲(お)◇◎ひきおろし(定)55ウ③、★大成191⑧同(新194⑥引ひき下おろし)、池59オ⑪同、河113⑱同、陽25⑰同(おろし)*異文

〈みおろす〉「見下ろす」◇○みおろさる、(定) 2ウ⑤、★大成
152③同(新153③)、池2ウ⑧同、河8⑩同／陽3⑫(を)

〈コ〉

〈かをる〉「薫る」○かほりいて(定) 12ウ⑥、★大成160③同(新
161⑧)と心にく、かほ(を)り出いで、池14オ⑪同／河94⑪
*当該部ナシ(こ、ろにくきほとに)、陽7⑰*当該部ナシ(こ、
ろにくきほとに)

〈くちをし〉「口惜し」○いとくちおし(定) 8オ⑨、★大成156⑪
同(新158①)、池9ウ①同／河92⑩(を)、陽6①(を) ○
くちおし(定) 24ウ①、★大成169①同(新170⑪)、池27オ
⑨同、河99⑱同／陽13③(を) ○くちおしくて(定) 29ウ
④、★大成172⑩同(新174⑫)、池32ウ③同／河102②(を)、
陽15④(くちをしめて) ○くちおしう(定) 51ウ⑦、★大成
188⑩同(新191⑥)、池55オ⑥同／河111⑭(くちをしく)、
陽24⑥(くちをしく) ○くちおしかへければ(定) 52ウ①、
★大成189③同(新191⑭)、池56オ①同／河112②(くちをし
かりぬへければ) *異文、陽24⑪(くちをしかりぬへければ)
*異文 くちおしう(定) 8オ⑥／★大成194⑬(を)(新197⑪)、
池64オ⑨(越)、河115⑫(くちをしかりけり) *異文、陽27
⑮(くちをしかりけり) *異文

〈やをら〉○やおら(定) 52ウ⑧、池56オ⑪同／★大成188⑦(を)
(新192④)、河112⑥(を)、陽24⑮(を)

〈をかし〉◎おかしう(定) 1ウ⑧、★大成151⑨同(新152⑩)、
池1ウ⑩同、河8⑩同、陽3⑦同(おかしふ) ○おかし(定)
5ウ⑦、★大成154⑩同(新155⑭)、池6ウ①同、河91⑥同
／陽4⑱(を) ◎おかしくて(定) 7オ④、★大成155⑪同
(新156⑮)旅寝もならひたまはねば、さすがにお(を)かしくて、
池8オ①同、河91⑱同(たひねもならはぬ御こ、ちにおかしく
おほされぬへかりけり) *異文、陽5⑩同(たひねもならはぬ
御心地におかしくおほされぬへかりけり) *異文 ○おかしう
(定) 8ウ②、★大成156⑬同(新158③)、池9ウ⑤同、河92
⑫同／陽6②(をかしく) ◎おかしの御くしや(定) 9オ⑨、
★大成157⑧同(新158⑬)、池10ウ⑤同、河93①同、陽6⑨
同 ◎おかしうおほす(定) 11オ④、★大成158⑬同(新160
③)、池12ウ②同、河93⑮同(おかしうおほさる) *異文、陽
7⑤同(おかしふおほさる) *異文 ○おかしう(定) 14ウ④、
★大成161⑩同(新162⑮)、池16ウ④同、河95⑨同(おかし
く)／陽8⑬(をかしく) ◎おかしう(定) 26ウ④、★大成
170⑩同(新172⑦)、池29ウ⑤同、河100⑮同(おかしうも)
*異文、陽14①同(おかしふも) *異文 ○おかし(定) 30
オ①、★大成172⑬同(新174⑮)、池32ウ⑩同／河102④*

当該部ナシ (ほのき、しかはほを多まる)、陽15⑥ *当該部ナシ (ほのき、しかはほをえまる) ○おかしきそら (定) 35オ③、★大成176⑨同 (新178⑬)、池38オ⑤同 (おかしきころ) *異文、河104⑦同 (おかしきほとに) *異文、陽17⑩同 (おかしき程に) *異文 ○おかしきよ (定) 35ウ④、★大成177⑭ (をかし夜) [*「し夜」に「き」傍書] ○おかしと (定) 38ウ②、★大成179②同 (新181⑧)、池41ウ⑩同、河105⑬同、陽18⑰同 ○おかしき多 (定) 44ウ⑨、★大成183⑪同 (新186⑥お (を) かしき絵多)、池48オ⑨同、河108⑮同、陽21⑱同 ○おかしかりぬへきに (定) 46オ④、★大成184⑩同 (新187⑤)、池49ウ⑥同、河109⑦同、陽22③同 ○おかしかりつる人 (定) 46ウ⑨、★大成185④同 (新187⑬)、池50オ⑩同、河109⑬同、陽22⑩同 ○おかしき多 (定) 47オ④、★大成185⑥同 (新187⑮お (を) かしき絵多などを)、池50ウ④同、河109⑮同 ((多などの) おかしきを) *異文、陽22⑪同 ((多などの) おかしきを) *異文 ○おかしの御にほひや (定) 47ウ⑦、★大成185⑫同 (新188⑦)、池51オ⑧同、河110②同 / 陽22⑯ *当該部ナシ ○おかしき多 (定) 57オ④、★大成192⑩同 (新195⑧)、池61オ⑤同、河114⑤同 (おかしき) *異文、陽26⑩同 (おかしき) *異文 ○おかしき所 (定) 57

ウ④、★大成193②同 (新195⑭)、池61ウ⑦同、河114⑩同 / 陽26⑭ (を) ○おかしき多 (定) 57ウ⑤、★大成193③同 (新195⑮いとお (を) かしき絵多)、池61ウ⑨同 / 河114⑩ *当該部ナシ (いまめかしき多を)、陽26⑭ *当該部ナシ (いまめかしき多を) ○おかしき (定) 61オ⑤、池89オ⑩同、河116①同 / ★大成195⑨ (を) (新198⑦)、陽28③ (を) (をかしげなり) ○おかしけなる (定) 3オ⑦、★大成152⑩同 (新153⑭)、池3ウ②同、河90②同、陽3⑱同 ○おかしけなれは (定) 39オ②、★大成179⑧同 (新181⑭)、池42オ⑨同、河106⑤同 (おかしけなり) *異文、陽19③同 (おかしけなり) *異文 ○おかしけにて (定) 36ウ⑦、★大成192⑦同 (新195⑤)、池60ウ⑧同、河114②同 / 陽26⑦ (を) ○おかしけに (定) 58オ①、★大成193⑤同 (新196③)、池62オ④同、河114⑫同、陽26⑯同 (をさなし) 「幼」○おさなく (定) 6オ⑤、★大成154⑭同 (新156④)、池6ウ⑪同、河91⑩同、陽5③同 ○おさなや (定) 8ウ⑥、★大成157①同 (新158⑥)、池9ウ⑪同、河92⑬同、陽6④同 ○おさなかりつるゆく多 (定) 14ウ⑧、★大成161⑫同 (新163④)、池16ウ⑨同、河95⑪同、陽8⑮同 ○おさなき (定) 15オ④、★大成162①同 (新163⑦)、池17オ⑤同、河95⑬同 (おさなからん) *異文、陽8⑰同 (おさなからん)

＊異文 ○おさなく(定) 39才①、★大成179⑧同(新181⑭)、
 池42才⑧同、河106④同、陽19③同(おなく) ＊「おなに
 」に補入、「く」重ね書き」 ◎おさなきほとに(定) ホウ①、★
 大成180⑧同(新183②)、池43ウ⑦同、河106⑬同、陽19⑮
 同 ◎おさなき人(定) ホウ⑦、★大成180⑫同(新183⑥)、
 池44才⑤同、河106⑱同、陽19⑰同 ◇(なつかしきを)、
 さなき心ちにも(定) 45才②、★大成183⑫(お)(新186⑦)、
 池48ウ①(お)、河108⑯(おさなく、ちにも) ＊異文、陽21
 ⑬(おさなき心にも) ＊「心に」の右に「ち」傍記」 ◎おさな
 き人(定) 47才⑨、★大成189⑨同(新188③)、池50ウ⑩同、
 河109⑰同、陽22⑬同 ◎おさなき御心ち(定) 49才④、
 ★大成186⑪同(新189⑦)、池52ウ③同、河110⑬同、陽23
 ⑥同 ◎心おさなく(定) 50才⑧、★大成187⑨同(新190④)、
 池53ウ⑧同、河111④同、陽23⑮同(心おさなくて) ＊異文「心」
 左傍点、右傍記(×は)」 ◎おさなき人を(定) 51ウ⑧、★大成
 188⑪同(新191⑦)、池55才⑨同、河111⑮同(おさなき人)
 ＊異文、陽24⑦同 ◎おさなき人は(定) 53才①、★大成189
 ⑨同(新192⑥)、池56ウ③同、河112⑦同、陽24⑯同(おさ
 な人も) ＊異文「な人」に「き」補入」
 〈をさなげなり〉「幼げなり」○おさなげなるも(定) 58ウ④、★
 大成193⑪同(新196⑨)、池62ウ⑥同／河114⑱ ＊当該語ナ

シ(おさなきも)、陽27③ ＊当該語ナシ(おさなきも)
 〈をさなごち〉「幼心地」○おさな心ちにも(定) 9ウ⑦、★大成
 157⑫同(新159③)、池11才③同、河93④同／陽6⑫(おさ
 な君ご□ち)にも ＊異文 ◎おさな心ちに(定) 24ウ⑨、★
 大成169⑥同(新171①)、池27ウ⑨同、河100②同、陽13⑥
 同
 〈をささち) ○おさ〜(定) 51才⑧、★大成188⑤同(新191①)、
 池54ウ⑧同、陽24③同／河111⑪(を)
 〈をしふ)「教ふ」◇○をし〜(定) 14ウ⑥、★大成161⑪同(新163①)、
 池16ウ⑥同／河95⑩(お)、陽8⑭(おしき) ◇○をし〜て
 む(定) 38ウ⑥、★大成179⑤同(新181⑩)、池42才③同、
 河106②同をし〜なしてん) ＊異文／陽19① ＊当該語ナシ(を
 し〜なしてん) ◇○をし〜きこえたまへは(定) 55ウ⑨、★
 大成191⑫同(新194⑩)、池59ウ⑨同、河113⑭同／陽26①
 (おし〜きこえ給へは) ◇○をし〜きこえ給(定) 57才②、★
 大成192⑨同(新195⑦)、池61才②同、河114④同、陽26⑨
 同 ◇○をし〜きこえむかし(定) 58ウ②、★大成193⑩同(新
 196⑧)、池62ウ④同、河114⑰同／陽27②(お)
 〈をし〜)「教へ」◇○越しへのまゝに(定) 11ウ⑦、★大成159
 ⑦同(をしへのまゝ) ＊異文(新160⑪)、池13才⑨同(を)、
 河94③同(を)／陽7⑩(おしへのまゝに)

- 〈をこく〉[男]◎おとことも(定)56オ⑨、★大成192③同(新194⑮)、池60オ⑥同、河113⑰同、陽26④同
- 〈をとこぎみ〉[男君]◎おとこ君(定)80ウ①、★大成195②同(新197⑬)、池64ウ③同、河115⑭同、陽27⑱同
- 〈をのく〉[尾の上]「歌」◎おのくの(定)29ウ①、★大成172⑨同(新174⑨)、池32オ⑩同、河102①同／陽15③(を)
- 〈をり〉[折]○かゝるおり(定)19オ②、★大成165①同(新166⑧)、池21ウ③同(かるおり)＊「[かる]に「か」補入」、陽10⑪同／河97⑨(を) ○花のおり(定)21オ④、★大成166⑩同(新168③)、池23ウ⑪同、河98⑧同／陽11⑫(を) ○おり(定)27オ⑨、★大成171④同(新172⑮)、池30ウ①同、河101④同／陽14⑦(を) ○おり(定)31オ③、★大成173⑩同(新175⑫)、池34オ②同、河102⑬同／陽15⑰(を) ○おりしも(定)38オ⑤、★大成178⑬同(新181④)、池41ウ②同／河105⑮＊当該語ナシ(ほとにしも)／陽18⑮＊当該語ナシ(程にしも) ○おりにしも(定)48オ③、★大成186①同(新188⑩)、池51ウ③同、河110④同(おりしも)＊異文／陽22⑰(を)りしも ＊異文 ○おりなう(定)6オ②、★大成188⑩同(新189⑤)、池52ウ①同、河110⑫同(おりなく)／陽23⑥(を)りなく)
- 〈つづらをり〉[葛折り]○つづらおり(定)2ウ⑤、★大成152④同(新153⑦)、池2ウ⑨同、河89⑮同／陽3⑬(を)
- 〈をりをり〉[折折]○おり〜(定)35オ⑦、★大成176⑪同(新178⑮)、池38オ⑨同、河104⑨同／陽17⑪(を)
- 〈をりふし〉[折節]○おりふしに(定)41ウ④、★大成181⑥同(新183⑭)、池45オ①同、河107⑦同／陽20④(を) ○おりふし(定)56オ⑧、★大成192②同(新194⑮)、池60オ⑧同、河113⑰同／陽26④(を)
- 〈をる〉[折る]○花おりなと(定)3オ④、★大成152⑨同(新153⑫)、池3オ⑨同、河90①同／陽3⑬(を)

二

定家本で、歴史的仮名遣いに一致する例(◇印)をみると、〈オ〉のグループでは用例数176、〈ヲ〉のグループでは用例数7である。また、五本の仮名遣いがみな同じ例(◎印)は、〈オ〉では用例数95、〈ヲ〉では用例数31である。

定家本と池田本との異同にとくに注目してするために記号(○印)を付したが、この二本間で同じ仮名遣いの例は、〈オ〉では用例数236(◎印95+○印141)、〈ヲ〉では用例数69(◎印31+○印38)であった。また、仮名遣いが異なる例は、〈オ〉では用例数14、〈ヲ〉では用例数2である。つまり、〈オ〉での同表記(236)と異表記(14)との

合計は250、〈ヲ〉での同表記(69)と異表記(2)との合計は71である。以上の結果に加えて、定家本と大島本、定家本と河内本、定家本と陽明文庫本の関係について、それぞれ同表記の用例数を表にまとめると、次のようになる。⁶⁾

【表Ⅰ】 仮名遣いにおける同表記例(オとヲ) *オとヲの区別において、「越」はヲと同表記として数える。

備考	同表記例		定家本と池田本	定家本と大島本	定家本と河内本	定家本と陽明文庫本
	〈ヲ〉	〈オ〉				
*〈オ〉漢字表記5例を含む	69	236				
*〈オ〉漢字表記1例を含む	67	239				
*〈オ〉漢字表記2例を含む	56	184				
*〈オ〉漢字表記1例を含む	33	118				

五本の仮名遣いを比較すると、定家本と陽明文庫本の同表記(仮名遣い)例は他と比べて少ない。前稿②④⑤⑥でみた柏木巻・早蕨巻・行幸巻・夕霧巻と同様に、若紫巻でも、別本の陽明文庫本が他本と著しく異なることが明らかである。また、柏木巻の〈オ→ヲ〉(本稿でのオのグループ)では、定家本は大島本よりもむしろ河内本との一致度が高く、早蕨巻と行幸巻では、定家本は大島本、河内本のいずれともほぼ同じ一致度であった。ところが、若紫巻では、これまで調べた他巻に比して、定家本と河内本との一致度はかなり低い

のである。

次に、前稿②④⑤⑥の柏木巻・早蕨巻・行幸巻・夕霧巻での調査と同じく、便宜、大野晋の掲げた「藤原定家の仮名遣実例」などによって、定家の仮名遣いとの一致度をみることにしよう。⁷⁾

仮名遣いが他本と著しく異なる別本の陽明文庫本を除き、他の四本において、定家の仮名遣いと一致する語例(同表記例)をそれぞれ数えてみると、表Ⅱのようになる(大野の資料にない語例は、仮名遣いの確認ができないものとして表の数値には入れない)。

【表Ⅱ】 定家の仮名遣いと同表記例／異表記例(オとヲ)

備考	異表記例		同表記例		定家本
	〈ヲ〉	〈オ〉	〈ヲ〉	〈オ〉	
*別に漢字表記3	1	7	67	232	定家本
*別に漢字表記3	2	6	66	232	大島本 (大成/新)
*別に漢字表記4	1	9	67	229	池田本
*別に漢字表記4	12	56	57	182	河内本

柏木巻・早蕨巻・行幸巻では、いずれも定家本・大島本と定家の仮名遣いとの一致度は高かった。表をみると、若紫巻でも、定家本・

大島本に池田本も加えて三者の定家の仮名遣いとの一一致度は甚だ高い。このうち、定家本との一一致度が高いのは至極当然のことともいえよう。また、大島本・池田本の一一致度が高いのは、定家本との距離の近さが窺えるかと思われる。一方、柏木卷・早麻卷・行幸卷さらには夕霧卷でも、総じて河内本の定家の仮名遣いとの一一致度が高いことに注目してきたのであるが、若紫卷では、他卷に比して一一致度がかなり低い。

表Ⅱの河内本の異表記例を子細にみると、実は異文がかなり多く存するのである。しかも、〈オ〉では、56例のうち31例が「当該語(部)ナシ」の異文であり、〈ヲ〉でも12例のうち、5例が「当該語(部)ナシ」の異文である。これは、そもそも尾州家河内本の本文自体の問題といえよう。

尾州家河内本は、岡寫偉久子によれば、基幹卷である鎌倉期写本の筆跡は様々で、「筆者はおそらく三十名を超えらると思われ」といい、「書写者の質は様々に異なっているように思われる」という。これまでの調査の範囲内でのことになるが、他卷に比べて、尾州家河内本若紫卷の仮名遣いへの意識が低い。尾州家河内本におけるこのような違いは、他にも卷によってみられるのか今後の課題となる。

大島本の〈ヲ〉の異表記2例のうち、次の例をみてみよう。

○いとをかしきもてあそひなり大成(大島)195⑨(新198⑦)

―*「をかし」は定家の仮名遣いで「お」

卷末に近いので、池田亀鑑のいう第二次奥入残存本文をみると、「おかしき」である。定家本(61オ⑤)も「おかしき」とある。いずれも定家の仮名遣いどおりである。若紫卷大島本には「をかし」21例、「をかしげなり」4例が存する。みな定家の仮名遣いどおりであるのに、この例だけがその仮名遣いを継承していない。この箇所のすぐあと筆記者が変わるということだが、そのことに関わるのか。

本稿では、オとヲ以外の仮名遣いについては、直接の対象とはしなかつたのであるが、少し目についた例をみてみることにしよう。

前稿①③で確認したように、「まゐる(参る)」という語は、固定的な表記「まいる」が使用されていた。ところが、大島本の若紫卷には、

○うちへもまひらて大成(大島)174⑫(新176⑮)―*「ま

いる」＝定家本32ウ③・池田本35ウ③

○とくまひり給へき大成(大島)174⑭(新177④)―*「ま

いる」＝定家本32ウ⑦・池田本35ウ⑧

○まひり給ひける大成(大島)176⑥(新178⑩)―*「まいる」

＝定家本34ウ⑦・池田本37ウ⑨

とあって、「まひる」という表記になっている。ほかにも、大島本には、

○うちなひ給て大成(大島)188④(新185⑬)―*「ない」(泣

い)＝定家本34オ⑤・池田本47ウ③

○いとほつらはしう大成(大島) 187⑩(新190⑤) — *「わつらはしう」(煩はしう) 〓定家本 80ウ①・池田本 83ウ⑨

○ゐとむくつけく大成(大島) 191⑩(新194⑧) — *「いと」

〓定家本 85ウ⑤・池田本 89ウ④

○宮おは大成(大島) 195③(新197⑮)宮お(をば) — *「を」(助詞) 〓定家本 60ウ④、「越」〓池田本 64ウ⑥

などの仮名遣いがみられる。大島本については、これまで種々論議されてきている。伊井春樹¹⁰⁾は、「大島本を子細に検討していくと、そこになされた各種の訂正の多さとともに、長文の書き入れにしばしば出くわすのには驚かされてしまう」といって、その例を示すなかに、若紫巻の三箇所を掲げる。大成本文により、その一例を挙げると、

○思ひいられ侍りつるなといひてこの人も事ありかほにや思はむなとあいなければ 〓大成(大島本) 187⑪(新190⑥)

という箇所であるが、大成も新大系本も、傍線部の補入をそのまま本行本文にしている。目移りによる脱落と説明されているが、定家本(50ウ②)でも、前後の二つの「なと」が、隣接する行でほぼ並んでいて目移りによる誤写の可能性が窺える。さらに、佐々木孝浩¹¹⁾は、大島本は新旧二つのグループ(古写と新写)からなる伝本である、という説を展開している。それによれば、古いグループの十九冊に対して、「やや新しく感じられた三十二冊は、容易に整理しが

たい程に多くの手が交じっているようなのである。」という。また、田村隆¹²⁾は、「人々」と「人く」の二種類の表記が巻によって偏りがあることに注目し、佐々木のいう古いグループ十九冊はそのほとんどが「人く」であることを示した。若紫巻は、二つのうち、新しいグループのなかの一つである。

近年も新美哲彦¹³⁾が、「すでに指摘されているように、丁寧で親本に忠実な写本ではなく、劣化した本文であることは明らかであろう」とするが、本文の異同を検討したうえで、

新出「若紫」本文は、大島本と近いが……大島本文は、やはり室町期写本との接触の痕が見られる。

と述べている。佐々木説で、若紫巻は新しいグループであるが、大島本のオとヲ以外の仮名遣いについては、右で述べたことを反映しているのではないかと思われる。

定家本の異表記もみてみると、定家本(オ)7例のうち2例で「越」の使用がみられる。

○越ほえたまふ(定) 83オ⑤ — *「おほゆ」[覚ゆ]は定家の仮名遣いで「お」

○越ろしたまふ(定) 82ウ⑨ — *「おろす」[下ろす]は定家の仮名遣いで「お」

池田本(ヲ)の異表記は1例のみであったが、「越」の使用例である。○くち越しう池 64オ⑨ — *「くちをし」[口惜し]は定家の仮

名遣いで「お」

前稿⑤の行幸巻でも、定家の仮名遣いにおいて「お」「を」のそれぞれに相当する「越」の使用例があった。「越」には両様の使用方を認めるべきなのか。そうであれば、異表記例が減ずることになる。

三

すでに、前稿⑤で定家本四帖（花散里・行幸・柏木・早蕨）における字母「越」の使用状況などを比較したが、あらためて若紫巻を加えた定家本五帖について、表にまとめてみよう。

【表Ⅲ】定家本五帖の比較（付・池田本若紫巻） ※行幸巻・若紫巻も、校異篇の分量を参考に掲げる。

巻名	校異篇分量	字母「越」	「猶（なほ）」の表記
11帖 花散里	387頁～390頁 （計4頁）	1「助詞0」 自 立語1」	猶1／なを1
29帖 行幸	参考[885頁～ 911頁（計26頁 強）]	69「助詞50」 自 立語19」	猶2／な越4 ／ なほ1
36帖 柏木	1227頁～1264 頁（計38頁）	29「助詞11」 自 立語18」	猶8／なを21

池田本 若紫巻	48帖 早蕨	3「助詞1（和 歌）／自立語2」	猶3／なを1
	1677頁～1694 頁（計17頁強）	参考[151頁～ 155頁（計45頁）]	15「助詞7」 自 立語8」
84「助詞80」 自 立語4」			猶6／な越7

字母「越」の使用状況は、前稿⑤で行幸巻での使用が断然多いことを確認したが、定家本五帖のなかで最も本文分量の多い若紫巻と比較しても、やはり、行幸巻での使用例の多さが際立っている。とくに助詞50は極めて多い。参考に付した池田本若紫巻でも、「越」の使用が多く、しかもほとんどが助詞での使用である。

田中恭子は、仮名の字母に焦点を当て、字母の種類と用字率を調査している。その調査対象は、明融本や土左日記などにも及ぶが、ここでは定家本五帖に限ってみると、字母の種類傾向は、柏木Ⅱ・早蕨・若紫が同一の非定家筆であることを示唆しよう、とのことである。また、行幸巻について、

定家は、漢数字やカタカナを字母とする仮名文字遣を避けているのだろう。「行幸」には「二」の字母を見るが別の非定家を見るのを窺わせる。

といふ、やらの、

「行幸」には、……行頭に並ぶ用字に対する配慮が乏しい点で、書写者として、五帖中、単独の存在として察知される。

ともい¹⁵う。やはり、行幸巻は他の四帖とは明らかに異なるものといえよう。¹⁶

前稿③で、「猶(なほ)」の表記をみたが、その際の遠藤邦基の説を再び引くと、

定家は副詞(なほ)の表記法として、漢字で書くことを原則とし、やむをえず仮名で表記する際には、転呼音化した「なを」と書いていた

という¹⁷。定家本若紫巻では、全13例すべて漢字表記「猶」である。そして、前稿⑤で確認したように、行幸巻での「なほ」という表記は注意される。池田本若紫巻でも、「なほ」という表記はない。若紫巻における諸本の表記(仮名遣い)は、次のとおりである。

- 〈なほ〉「猶」○猶(定) 4才④、池4ウ①同、陽4⑤同／★大成(大島) 153⑥(なを)、河8⑨(なを)
- 〈なほ〉「猶」猶(定) 7才①、陽5⑨同／★大成(大島) 151⑨(なを) (新156⑭)、池7ウ⑨(な越)、河91⑰(なを)
- 〈なほ〉「猶」○猶(定) 14ウ⑧、池16ウ⑩同、陽8⑮同／★大成(大島) 161⑫(なを) (新163④)、河95⑪(なを)
- 〈なほ〉「猶」猶(定) 27才②、★大成(大島) 170⑭同(新172⑪)、陽14④同／池30才③(な越)、河101①(なを)
- 〈なほ〉「猶」猶(定) 27ウ⑧／★大成(大島) 171⑧(なを) (新173⑤)、池30ウ⑩(な越)、河101⑦*当該語ナシ、陽14

⑨*当該語ナシ

- 〈なほ〉「猶」○猶(定) 30才⑨、池30才⑨同／★大成(大島) 173④(なを) (新175⑤)、河102⑦*当該語ナシ、陽15⑩(なを)

- 〈なほ〉「猶」猶(定) 31ウ⑤／★大成(大島) 174②(なを) (新176⑤)、池34ウ⑤(な越)、河102⑧*当該語ナシ、陽16③*当該語ナシ

- 〈なほ〉「猶」○猶(定) 32ウ⑤、池35ウ⑥同、陽16⑫同／★大成(大島) 174⑬(なを) (新177③)、河103⑨(なを)
- 〈なほ〉「猶」猶(定) 33ウ③、陽16⑮同／★大成(大島) 175⑧(なを) (新177⑫)、池36ウ⑤(な越)、河103⑯(なを)

- 〈なほ〉「猶」○猶(定) 34才②、池45才⑩同、陽20⑦同／★大成(大島) 181⑩(なを) (新184④)、河107⑩(なを)
- 〈なほ〉「猶」○猶(定) 34才①、池47才⑨同、陽21⑥同／★大成(大島) 183②(なを) (新185⑪)、河108⑧(なを)

- 〈なほ〉「猶」猶(定) 47ウ①、★大成(大島) 185⑨同(新188③)／池50ウ⑪(な越)、河109⑰(なを)、陽22⑬(なを)
- 〈なほ〉「猶」猶(定) 54ウ⑨／★大成(大島) 191①(なを) (新193⑬)、池58ウ⑦(な越)、河113⑥(なを)、陽25⑫(なを)

四

若紫卷定家本の出現以来、それを使用した本文の異同に関する研究がみられるようになった。本稿でも、定家本・池田本・大島本の本文の異同について、いくつかの例をみてみることにしよう。

有名な例であるが、大成校異篇の本文（*印で注・校異を付す）に、

○人なくてつれ／＼なれば＝大成（大島本）155⑪（新157②）

*新大系・脚注一三＝青表紙他本多く「日もいとなかきに」、

伏見天皇本は底本に同じ。

*大成校異【青表紙本】人なくて一ひもいとなかきに御榊

池肖三一日もいとなくて横【*「く」補入】

同【河内本】人なくて一日もいとなく七一日もいとなか

く宮尾大鳳 *陽明文庫本5⑪日もいとなかき

に

とある箇所。校異などで確認できるが、池田本（8オ③）にも「日
もいとなかきにつれ／＼なれば」とあり、諸本のなかで、大島本は
ほぼ孤立した例であった。ところが、新出の定家本では、大島本と
同じく「人なくてつれ／＼なれば」（7オ⑤）である。久保木秀夫は、
「定家本という分類中でふたとおりの本文があること。（中略）とい
うことをあらためて突きつけてくる本文」が確認されたという。¹⁹⁾

阿部秋生は、つとに「人なくて」の箇所について、

「人なくて」「日もいとなか。て」「日もいとなかきに」という
三種の異文が、青表紙本として、鎌倉時代に並立していた可能
性があることになろう。

といいつつも、結局、

一見しては、全く別の辞句のような異文だが、書写に際しての
自然発生的な誤脱の堆積が、このような激しい異文を生じるこ
とも、時には、ありうるのではなからうか。

とした。²⁰⁾そして、これも阿部が取り上げた例だが、定家本・池田本・
河内本なども並べて掲げることにする。

○これみつのあそむと＝大成（大島本）153⑬（新157③）

*大成校異【青表紙本】—これみつはかり御ともに榊池三

○これみつのあそむと＝定家本7オ⑦

○これみつはかり御ともに＝池田本8オ⑥

○これみつはかり御ともに＝河内本92②

○これみつはかりを御ともに＝陽明文庫本5⑫【*「を」見

せ消ち】

阿部は、

「これみつはかり御ともに」という本文は本来河内本の本文
であったかとも思うが、榊原本・池田本にこの本文があるのだ
から、この二つの本文は、いずれも、青表紙本として通用して
いたと考えるべきなのだろう。この二つの本文（異文）は、一

方が他方を訓みそこねて誤写したといえるような性質のものではない。青表紙諸本相互の異文としては、最も激しく転化している一例であろう。

類義の語の異同の例を挙げる。定家本・大島本そして池田本など諸本を並べてみよう。

- しりへの山にたちいて、京のかたを見たまふ||定家本3ウ②
○しりへの山にたちいて、京のかたをみ給||大成(大島本)152②(新154②)

*大成校異152⑬【青表紙本】しりへのしりへの御池三
—しりへ(うしろ)の榭—しるへの宵

【*榭原家本の「うしろ」は、「本文ノ傍(「しりへ」の右傍)ニ並列シテ書入レラレタ文字】

- しりへの山にたちいて、京のかたを見やりたまふ||河内本90④

○うしろの山にたちいて、京のかた越み給||池田本3ウ⑧

- うしろの山にたちいて、京のかたをみたまふ||陽明文庫本4①

「うしろ」「しりへ」という二つの本文がある。ちなみに須磨巻には、「うしろの山」の例がみられる。

- おはしますうしろの山にしはといふものふすふるなりけり||

大成(大島本)152⑤【*校異—青表紙本・河内本・別本いずれもナシ】

大成・索引篇によれば、源氏物語の「しりへ」の例は、右の若紫巻の1例のみである。これに対して、「うしろ」は源氏物語に全27例ある(その異文が「しりへ」になっている例は1例もない)。宮島達夫編『古典対照語い表』に取り上げる中古の11作品では、「しりへ」は、蜻蛉日記(8例)にみえるのみであるが、「うしろ」は枕草子(22例)、紫式部日記(7例)、蜻蛉日記(3例)、後撰和歌集、大鏡に用例がみえる。ところで、源氏物語の注釈書に目を向けてみると、河内方の注釈書である素寂の『紫明抄』巻第三若紫の本文中に、「しりへの山にたちいて、京のかたを見やり給」とある。下って初期の注釈の集大成とされる『河海抄』の巻第三にも「しりへの山」の注釈を引き継いでいる。定家本「しりへの山」は、河内本と同じ本文である。一つの例ではあるのだが、定家本と河内本との格別な親近性がみられる。そして、池田本の「うしろの山」という本文と、二つの本文が早い時期に存在していたのだろう。榭原家本がこの部分を見せ消ちにせず、並列して書き入れているのも参考になるろうか。

源氏物語大成・索引篇によると、源氏物語には「をんなみや(女宮)」の例が全16例ある。若菜上巻以降に15例みえるが、それ以前の巻では、若紫巻に1例のみ存する。その例を、定家本・大島本・池田本

等でみてみよう。

○女宮＝定家本 34ウ①

○女宮＝大成（大島本）176②（新178⑥）

*大成校異176②【青表紙本】女宮—宮榊池三

○宮＝池田本 37ウ②

○みや＝河内本 104④

○宮＝陽明文庫本 17⑥

若紫巻に「宮」は全23例で、このうち、藤壺の宮を指す例が3例（大成173⑬、174⑬、176⑪）ある。その3例の間に用いられた、右の例も、藤壺の宮を指す。いずれも、「宮」とのみいうなかで、定家本・大島本の「女宮」は孤立した例といえよう。

次は、和歌中の例で、池田本には、

○みてすきかたきいもかかとかな＝池田本 50オ③

とあるが、大島本（大成184⑭）には、

○行すきかたきいもかかとかかと（新187⑧行（ゆき）過ぎが

たき妹いもが門かとかかと）

*大成校異【青表紙本】行すきかたき—みて（ゆき）すき

かたき三「*「みて」見せ消ち、「ゆき」書き入れ」

とあり、河内本（109⑩）も陽明文庫本も（22⑦）「ゆきすきかたき」、さらには定家本（46ウ②）も「ゆきすきかたき」とあって、今度池田本がほぼ孤立しているが、三条西家本の様態から「みて」と

いう本文の存在が推察されよう。ちなみに、若菜上巻には、

○あひみてすきはてぬる＝大成（大島本）1098②（新・三280

⑤あひ見みて過ぎはてぬる）

*青表紙本・河内本は、校異ナシ

という例がある。

『古典対照語い表』で検索すると、動詞「すぐす（過）」は平安時代の9作品に広く使用されていることがわかる。一方、「すこす（過）」のほうは、源氏物語以外では、蜻蛉日記に5例、大鏡に1例みえるのみである。その源氏物語を先の索引篇で見ると、複合動詞を除いても、「すぐす」257例、「すこす」10例で、圧倒的に「すぐす」が多い。大成若紫巻には「すこす」1例があるが、諸本と比較してみる。

○すこし給はむ＝大成（大島本）186⑬（新189⑨過すこし給

はむ）

*大成校異186⑬【青表紙本】すこし—すくし御横榊池有

三 *新大系189・脚注二—青表紙他本多く「すく

し」。

○すくしたまはむ＝定家本 49オ⑧

○すくし給はん＝池田本 32ウ⑧

○すくしたまはん＝河内本 110⑭

○すくしたまはん＝陽明文庫本 23⑧

大成・校異篇によれば、「すこす」の残り9例のうち、1例（宿

木162①)のみ青表紙本での校異ナシであるが、他の8例はすべて「すぐす」の異文が諸本に存する(とりわけ池田本は8例みな「すぐす」)。右の例はもとは定家本・池田本のように「すぐす」であったのであろう。大島本と、定家本・池田本との新旧の時代差が窺える。次も、大島本が定家本・池田本と異なる例。本文を比べてみよう。

○おもひしり給へりしそかし||大成(大島)157⑩(新159①)
思おもひ知しり給へりしそかし)

大成校異157⑩【青表紙本】給へりしそかし―給へりしそかし御横【「そ」補入】―給へりきかし榊―給へりしかし池三

○おもひしりたまへりしかし||定家本9ウ④

○思しり給へりしかし||池田本10ウ⑩

○おもひしり給へりしかし||陽明文庫本6⑩

○思しりたまへりき||河内本93③

大島本は、助動詞「き」の連体形+「ぞかし」で、接続上は問題ない。定家本・池田本は、「き」の連体形+「かし」である。活用語が文末にあれば、助詞「かし」は単独ではその文末に付くので、接続上は、榊原本の「給へりきかし」とありたい。御物本横山本の「そ」補入は、単なる誤写の訂正ではなく、語法のうえからよかれとして補入したのではないか。定家本・池田本の本文は、時期を確定はできないものの、定家監督本当時の新たな終止形「し」+「かし」が

そのまま残ったものとみることとはできないだろうか。小松英雄は、「終止形による連体形の吸収という現象も、語によって変化の遅速がある」といい、「助動詞キもまた、もつとも早くこの変化が及んだ語の一つである」と述べている。そして、藤原定家も、

自分自身の文章には、丁寧な文体に新しい終止形を使用してゐる。

として、「近代秀歌」の最初に近い部分」を図版で示しつつ、二つの「侍し」(ハベリシ)を指摘した。

わづかに思ひ得たることを書きつけ侍りし。些かの由もなく、ただ詞に書き続けて送り侍りし。(日本古典文学全集469頁による)

ただし、このあとの文中に、「さらに伝へ聞くこと侍らざりき」(473頁)という例もあって、連体形終止の一般化とはみずに、説明的な表現価値を伴う連体形終止とみておくべきか。

ところで、渋谷栄一は、

もし、青表紙本系統内に幾つかの本文グループが存在し、それが複数の定家本にそれぞれ淵源するものであるならば、まず、そのことを見極め、それぞれの定家本の様態を具体的に明らかにすべきこと。

と考えていて、「池田本の位置づけを今明確に示すことはできないが」としつつも、「定家本の同一祖本系統から別れ出た」本文とみ

ている。定家が作成した源氏物語の本文が複数存在したとする説は、はやくに片桐洋一⁽²⁰⁾が論じている。そのなかで、

自筆本「奥入」所収の「源氏」本文に近似する傾向にあった横山家旧蔵本・池田本（天理図書館現蔵）・御物本（東山御文庫本）などの本文を検討することによって「奥入」所収の榭型第二次定家本の全容を明らかにし、（傍線筆者）

と述べている。

近年、新美哲彦⁽³⁰⁾は、若紫巻の新出本（定家本）と大島本で一致する主要異同箇所を調査し、そのうえで、各諸本の新出本・大島本と一致する数値を表にまとめているが、それによれば、

榊原家本（榊）・池田本（池）・日大蔵三条西家本（三）は、新出本・大島本とほとんど一致せず、離れた一群を作っているという⁽³¹⁾ことである。（傍線筆者）

また別に、横井孝・池田和美⁽³²⁾は、総角巻を対象として、形容詞のウ音便化の現象における諸本本文の動きを調査して、

少なくとも総角の巻における形容詞ウ音便化の状況を見てゆく範囲では、青表紙本にはA・Bの両グループがあることを指摘しないわけにはゆかない。

という。仮に称するとするが、二つのグループは、

底本（大島本）・明融本・公条本・肖柏本ⅡAグループ 東山文庫本・池田本・三条西家本ⅡBグループ（傍線筆者）

となる。そして、Bグループは、河内本本文に近接するともいう。先にふれた渋谷⁽³³⁾は、その後、「定家本『源氏物語』生成」に関する見取り図、というなかで、

切り離された後の「源氏物語」と「奥入」が流布して現在に至っている。前者の代表的な写本として、池田本や御物本、横山本、榊原家本等の鎌倉期古写本があり、後者は自筆本奥入とその転写本、そして注釈研究の途上で生まれた異本系奥入や別本系奥入がある。

と考えている（傍線筆者）。

池田本をどのように位置づければよいのか。六半本との直接的な関係を想定するのか、四半本とはどのように関わっているのか、それらとは別な書写過程を想定するのか、容易には明らかにはない。とはいえ、定家本も池田本も定家の仮名遣いとの一致度が高いことは明らかである。定家監督本としてみると、他筆による少しばかりの異表記例が存していて、それは定家による修正が行き届かなかったものであろうか。

ここで、先学の研究もふまえてみるに、仮の命名ではあるが、定家監督本A系と定家監督本B系という、少なくとも二つの本文の系統があつて、それが定家本のグループと、池田本のグループとの本文の異同に現れているのではないかと考えられる。紙幅の関係で、本文の異同については、その具体例を一部しか取り上げられなかつ

た。また、前稿④⑥でみた「たまで」などの表記についてもふれられなかった。同じく前稿⑥で、大内英範が池田本帯木卷本文の古態性を論じていることに言及した。その池田本の古態性など、池田本文へのさらなる調査とともに、別途考察の機会を得ることになりたい。

〔注〕

(1) 本稿では、筆者が先に執筆した前稿について、次のように番号を付した。

- 前稿①は、「源氏物語玉鬘巻古写本の表記―歴史的仮名遣いと定家仮名遣い―」(『國學院大學栃木短期大学紀要』第48号、2014年3月)。
前稿②は、「源氏物語柏木卷古写本の仮名遣い(上)―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(『國學院大學栃木短期大学紀要』第51号、2017年3月)。
前稿③は、「源氏物語柏木卷古写本の仮名遣い(下)―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(『國學院大學栃木短期大学紀要』第52号、2018年3月)。
前稿④は、「源氏物語早蕨巻古写本の仮名遣い―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(『國學院大學栃木短期大学紀要』第53号、2019年3月)。
前稿⑤は、「源氏物語行幸巻古写本の仮名遣い―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(『國學院大學栃木短期大学紀要』第54号、2020年3月)。
前稿⑥は、「源氏物語夕霧巻古写本の仮名遣いと特異な表記―池田本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(『國學院大學栃木短期大学紀要』第56号、2022年3月)。
(2) 大河内元冬監修・藤本孝一解題『定家本源氏物語 若紫』(2020年)。

(3)

①は、注2の影印本により、筆者が翻字したものをを用いた。
②は、大島本を底本とする、『源氏物語大成』巻一・校異篇ならびに新日本古典文学大系(岩波書店)の源氏物語(以下、新大系本という)の本文による。新大系本は、その凡例によれば、「底本の本文を尊重し、手を加えないことを原則」としている。また、「仮名遣いは、底本のままとし、本文が歴史的仮名遣いに一致しない場合には、()でそれを傍記する。」とある。なお、^{法蘭西}古代学協会・古代学研究所編『大島本源氏物語』第一巻(1996年)の影印本文を適宜参照する。

③は、新天理図書館善本叢書第13巻『源氏物語 池田本一』(第四冊若紫)(2016年)の影印にもとづき、筆者が翻字した本文を使用した。その際、仮名の字体は現行のものに改めたが、ヲについては、「を」と「越」の区別を残した。なお、池田本の「お」の字母はすべて「於」の草体である。

④の尾州家河内本源氏物語の本文については、秋山虔・池田利夫編『尾州家河内本源氏物語』第一巻(1977年)若紫巻の翻刻により、『尾州家河内本源氏物語』第一巻(2010年)の影印本文を適宜参照する。
⑤の陽明文庫源氏物語の本文は、陽明叢書国書篇第十六輯『源氏物語二』(1979年)若紫巻の翻刻により、また、陽明叢書国書篇第十六輯『源氏物語二』(1979年)の影印を適宜参照する。

(4) 本稿では、すべてオとワの仮名遣いを取り上げる。ただし、紙幅の関係で、「おもふ(思ふ)」など一部の語は挙例を略したが、少し語例とその表記をみておく。定家本若紫巻に2例ある「おほしめす」のオは、大島本・池田本も合わせてみな「お」である。また、「おほす」は定家本若紫巻全89例(漢字表記なし)であるが、そのオはすべて「お」である。大島本・池田本も同様である(ただし、池田本は1例は補入、大島本は2例当該語なし)。これに対して、「思ふ」(およびその派生語)

は、漢字・仮名両様の表記がみられる（定家本で計87例≡名詞・形容詞11+動詞76）。表記を表にまとめて掲げる。

【表】若紫巻における「おもふ（思ふ）」（派生語を含む）の表記の比較

池田本	漢字表記			仮名表記		
	形容動詞・ (動詞)	計		形容動詞・ (動詞)	計	
0	9	9	11	67	78	
大島本	4	31	35	7	45	66・「を」 ⁶⁶ 、 ²
定家本	3	8	11	8	76	

- なおまた、河内本・陽明文庫本の二本だけの異文にみえるオ・ヲについても挙例を略した。ところで、渋谷栄一が、桐壺巻の明融臨模本・池田本に、本文と一筆の片仮名の書き入れ注記が存在することを指摘している（渋谷「定家本『源氏物語』の生成過程について―「桐壺」を中心として―」『源氏物語とその前後 研究と資料』、1997年）。若紫巻定家本にも、一例だけ補筆箇所片仮名がみえる。○定家本8オ⑨こめたりつる物ヲ一*「を」（助詞）≡大成（大島）156⑩（新80）⑨・池田本9ウ①
- (5) 定家本・池田本のヲについては、字母「越」はそのまま掲げて、「を」と字母の違いがわかるように示したが、オ・ヲ表記の別では、「を」「越」は同表記として扱った。なお、陽明文庫源氏物語の□印は、虫損・汚損などによる翻字不能箇所である。また、囲み文字は、推読しうる場合である。

(6) 異文で、音便形・非音便形、活用形などの違いがあっても、オ・ヲ

の仮名遣いが同じであれば、同表記として扱った。また、複合語を構成して、その一部に漢字・仮名表記の違いがある場合でも、オ・ヲの仮名遣いが同じであれば同表記とした。

例えば、「心おさなく（定家本）」と「こゝろおさなく（河内本）」など。

(7) 大野晋「仮名遣の起源についての研究」（『仮名遣と上代語』所収、1982年）の本文および「仮名遣の起源についての研究」資料の「一藤原定家の仮名遣実例」。同「仮名遣の起源について」（『国語と国文学』1950年12月号）参照。

(8) 岡嶋偉久子「源氏物語写本の書誌学的研究」（2010年）。

(9) 池田亀鑑「源氏物語大成」巻七・研究資料篇第二章第四節「資料としての第二次奥入残存本文」（105頁）による。

(10) 伊井春樹「大島本源氏物語本文の意義と校訂方法」（『論叢源氏物語 1 本文の様相』1999年）。

(11) 佐々木孝浩「大島本源氏物語」に関する書誌学的考察」（『斯道文庫論集』第41輯、2007年2月）。

(12) 田村隆「青表紙本の系譜」（『中古文学』第94号、2014年11月）。

(13) 新美哲彦「新出「若紫」巻の本文と巻末付載「奥入」―定家監督書写四半本『源氏物語』との関係を中心に」（『中古文学』第106号、2020年11月）。

(14) 前稿③で、渋谷栄一の指摘を紹介したが、柏木巻では、「猶」8例はすべて定家筆部で、「なを」21例はすべて非定家筆部。渋谷栄一「藤原定家筆『源氏物語』（四半本系原本4帖）の本文資料の再検討―「柏木」巻の定家筆と非定家筆との相違を中心に―」（豊島秀範編『源氏物語本文の研究』2011年）参照。

(15) また、行幸巻が固有の字母として、「支・古・新・登・耳・二・年・悲・見・母・羅」をもつことも、単独の非定家筆になることを示唆する、という。

- 田中恭子「青表紙本「柏木」百八十行の規範―定家の用字の字母―」〔中古文学〕第109号、2022年5月〕参照。なお、柏木巻は、「柏木 I」（定家筆の百八十行）と「柏木 II」（その後の七百二十三行）とする。
- (16) 渋谷栄一が、青表紙原本「源氏物語」（5帖）における字母の種類とその使用傾向などについて考察していて、

「青表紙原本『源氏物語』（5帖）の筆者（書写者）は、藤原定家（柏木（定家親筆部））と別人甲（「行幸」）、別人乙（「若紫」「花散里」「柏木（非定家筆部）」「早蕨」グループ）の3人である（傍線筆者）ということ結論としている。渋谷「定家本『源氏物語』本文の研究―漢字仮名字母翻字法が切り拓く新たな文献学的研究―」（2023年2月16日現在）―〈源氏物語の世界〉（<http://www.sanet.or.jp/~eshibuya/>）にて。

- (17) 遠藤邦基「解釈に影響した転呼音表記―「なほ（猶）」の場合―」（『国語表記史と解釈音韻論』2010年、第二章 古典解釈と仮名遣）。
- (18) 久保木秀夫「『源氏物語』藤原定家筆・四半本「若紫」一帖の出現をめぐって」（『語文』169号、2021年3月）。
- (19) 上原作和も、定家本の出現により、「人なくて」誤写説は誤りと判明した、といい、さらに、
- 『紫式部日記』の中で、……『源氏物語』流布の当初から二種類の本文があったのだから、この対立本文は原作当時から存在した可能性もあることを記憶しておきたい。
- と述べている。上原作和「定家本『若紫』の本文史」（『物語研究』第21号、2021年3月）参照。
- (20) 阿部秋生『源氏物語の本文』（1986年）。
- (21) 注20に同じ。
- (22) 他に、「しりへぎまなり」1例、「まへしりへ」2例のみである。また、

「うしろ」の関連語は、「うしろす」1例、「うしろで」「後手」「うしろみ」「後見」などがある。

- (23) 玉上琢彌編『紫明抄・河海抄』（1968年）。紀納言（紀長谷雄）の作を注釈に引く。
- (24) 天理図書館善本叢書叢書部第70巻『河海抄 傳兼良筆本一』（1998年）。巻第三・二丁ウ①（182頁）。
- (25) この文に続く「ふたかへりはかり」（大成184⑭）も異同がある。校異篇の青表紙本に、「ふたかへりはかり―ふたかへりはかり御「*」はかり「補入」―ふたかへり榊池三」とあり、池田本（50オ③）等には「ふたかへり」とある。定家本（46ウ③）は、「ふたかへりはかり」「*」「か」は補筆」。
- (26) 先に、「人々」「人く」の二種類の表記について、古いグループ十九冊はそのほとんどが「人く」である、と紹介した。しかし、田村隆は、その逆は必ずしも言えず、として、新しいグループのなかの宿木巻に「人々」が全く使用されず、「人く」（34例）が使用されていることを示して、それは、佐々木のいう、容易に整理しがたい程に多くの手が交じっているようなのである、という事情によるものと言えよう、と述べている。宿木巻には、本文のうえから何か問題が存するのであろうか。
- (27) 小松英雄「日本語はなぜ変化するか 母語としての日本語の歴史」（1999年）。
- (28) 渋谷栄一「定家本『源氏物語』本文の生成過程について―明融臨模本『帚木』を中心として―」（『論叢源氏物語―本文の様相』、1999年）。
- (29) 片桐洋一「もう一つの定家本『源氏物語』」（『中古文学』第26号、1980年10月）。
- (30) 注13に同じ。

- (31) 工藤重矩が、独自に若紫卷の非河内本諸本の本文異同状況を調査して、新美論文の「離れた一群を作っている」という指摘について首肯している。工藤「源氏物語若紫卷の本文―本文異同の分布にみる諸本の様相―」(『中古文学』第109号、2022年5月)参照。また、岡寫偉久子も池田本若紫卷の書誌的事項について解説しているなかで、若紫卷の本文の異同箇所について、「榊原家本(『大成』校異篇による)・肖柏本・三条西家本が池田本と同じ本文である場合が多い。中でも榊原家本はよく一致する。」と述べている。新天理図書館善本叢書第13卷『源氏物語 池田本』(2016年)の岡寫「各卷の書誌的事項―榊原家本・空蟬・夕顔・若紫―」参照。
- (32) 横井孝・池田和美「源氏物語青表紙本の本文管見―ウ音便をめぐる基礎作業についての報告―」(『静岡大学教育学部研究報告』人文・社会科学篇 第48号、1998年3月)。
- (33) 注16の渋谷栄一(源氏物語の世界)参照。
- (34) 大内英範『源氏物語 鎌倉期本文の研究』(2010年)の第三部「池田本の本文―平安期本文を求めて―」参照。